

第1回第三期高知市中心市街地活性化基本計画策定検討委員会
議事概要

■日時	令和3年11月18日(木) 15:00~17:00		
■場所	高知県立県民文化ホール4階 第6多目的室		
■出席者	【委員】 山本 剛義, 北村 和代, 安藤 浩二, 大西 みちる, 中田 陽子, 小島 尚, 谷脇 匡晃, 古谷 純代, 亀川 代平, 藤原 哲, 笹岡 和泉, 石筒 寛, 梶原 太一		
	【オブザーバー】 岡田 忠明, 山下 修, 岡崎 晃, 山本 俊郎, 岡林 成海, 松村 和明		
■次第	1 開会	2 挨拶	
	3 委員及びオブザーバーの紹介	4 委員長, 副委員長の選出	
	5 議事	6 講演	
	7 意見交換	8 その他	
	9 閉会		

1 開会

2 挨拶

高知市副市長 松島 研より挨拶。

3 委員及びオブザーバーの紹介

事務局より委員及びオブザーバーを紹介。

4 委員長, 副委員長の選出

委員長に古谷委員を, 副委員長に安藤委員を選出。

5 議事

○議題「第三期高知市中心市街地活性化基本計画の策定に向けて(これまでの取組経過報告)」

(説明:事務局)

○主な質疑等

【委員】

計画区域について, 第一期計画では142 ha, 第二期計画では143ha となっている。計画区域が拡大した理由は何か。

<事務局>

第一期計画では評価指標である「拠点施設の入館者数」を「とさてらす」と「かるぽーと」に設定していた。第二期計画では, 指標の検討に当たり, 県民文化ホールも文化の拠点施設として計画区域に入れるべきではないかと委員から意見があり, 県民文化ホールを計画区域に加えたことで面積が1 ha 増え, 143ha となった。

【委員】

歩行者通行量について, 資料4「他市の認定一覧」に掲載されている高松市も歩行者通行量を評価指標としているが, 算出方法は同じか。

<事務局>

算定方法までは詳細な整理をしていないが、他市と異なる場合が多いため、単純に比較の対象にはならないと考える。

【委員】

資料3 p 7「主な事業の進捗状況」について、「(仮称) 帯屋町一丁目地区複合施設整備事業」は竣工し住居部分は入居しているが、映画館や店舗部分がまだ事業完了していないので、引き続き支援いただきたい。

それから、空き店舗率についてであるが、算出方法は以前と同じ方法か。

<事務局>

空き店舗率の算出は従前と変わっていない。1階の路面店を対象とし、全店舗数分の空き店舗数の比率としている。

【委員】

京町商店街で「タウンモビリティステーションふくねこ」でタウンモビリティとバリアフリー観光窓口を運営している。コロナの感染者数が増え、利用者数は減少していたが、10月頃からは毎日のように観光の相談がある。例えば、高知城に行きたい車椅子の修学旅行生のサポートや、小さなお子さん連れのご家族の方からの相談などがある。こうしたニーズに応えるため、こうち観光ナビ・ツーリストセンターと連携しながら、街なかでの移動やお出かけのサポート等の取組を広めていきたい。

【副委員長】

資料4「他市の認定一覧」をみると、マンション等様々な施設を建設する形が多くみられる。居住人口は目標に近く増えている一方で通行量は必ずしも増えていない状況である。また、コロナの影響で数字は参考にならないと思う。

青森市や富山市など、第三期計画に入っている市も多く様々な取組があるが、高知市は第三期でどのような形でもっていくのか。中心市街地に関わる方達の他の都市に行った経験も沢山出し合わないといままでの延長上では三期目はできないと考える。

【委員】

資料3 p 5の計画概要について、おもてなし拠点やにぎわい拠点と示しているが、電車通りを区切って西は賑わいをつくっていくということか。観光の視点では、追手筋の活用について、もとより日曜市やよさこいの聖地であり、また、景観についてもヤシの並木道、高知城などを活かしてもっと賑わいを増やせないかと思う。観光なら宿泊していただくことで消費単価が上がる。観光客に宿泊していただくきっかけとしてはナイトエコノミーや朝活などがある。

高知は日曜市、夜の屋台、ひろめ市場など屋台文化が根付いており、ある意味それがうまくいっている地域であると思う。そうした文化を活かしつつ、追手筋の夜を活用して老若男女が「食」や「買い物」を楽しめる例えば、台湾の「士林夜市」のような屋台を作ってみてはどうか、また、歩行者天国のように歩行者が自由に活用できる空間となれば商店街との回遊性も上がるのではないかと。整備も含めて検討できると良い。

【委員長】

県外観光客だけでなく、県内の方もナイトエコノミーも利用いただき、活性化させていきたい。

計画のエリア設定について、事務局に説明を求める。

<事務局>

資料3 p 5は第一期計画の内容となっている。電車通りを挟んで西側を賑わい拠点、東側を文化拠点としていたが、第二期計画では中心市街地全体での賑わい創出を図るため、拠点設定はしていない。

ナイトエコノミーを含めて観光振興は検討している。庁内での「職員提案制度」というものがあり、3年前には「よさこいの聖地化」として追手筋の南側を追手筋プロムナードとできないかといった提案があり検討しているところである。歩行者天国にした場合の車の出入りなど課題はあるが、委員会で検討する価値はあると考えている。

【委員】

県外のお客様は追手筋のヤシの木やひろめ市場がアジアみたいで良いと、高知県民ではあまり聞かない感想を聞くことがある。まちの魅力を作る際に、県外の人から感想を聞くまたは発信することも面白いのではないかと思う。

6 講演

「これからの中心市街地の役割を皆さんと一緒に考える」

講師 流通科学大学商学部 准教授

中小機構 中心市街地活性化サポートアドバイザー

長坂 泰之 氏

7 意見交換

8 その他

事務局から、第2回委員会を令和4年2月に開催することを報告。

9 閉会

以上